

## 令和5（2023）年度 指定管理者制度導入施設 管理運営評価結果書

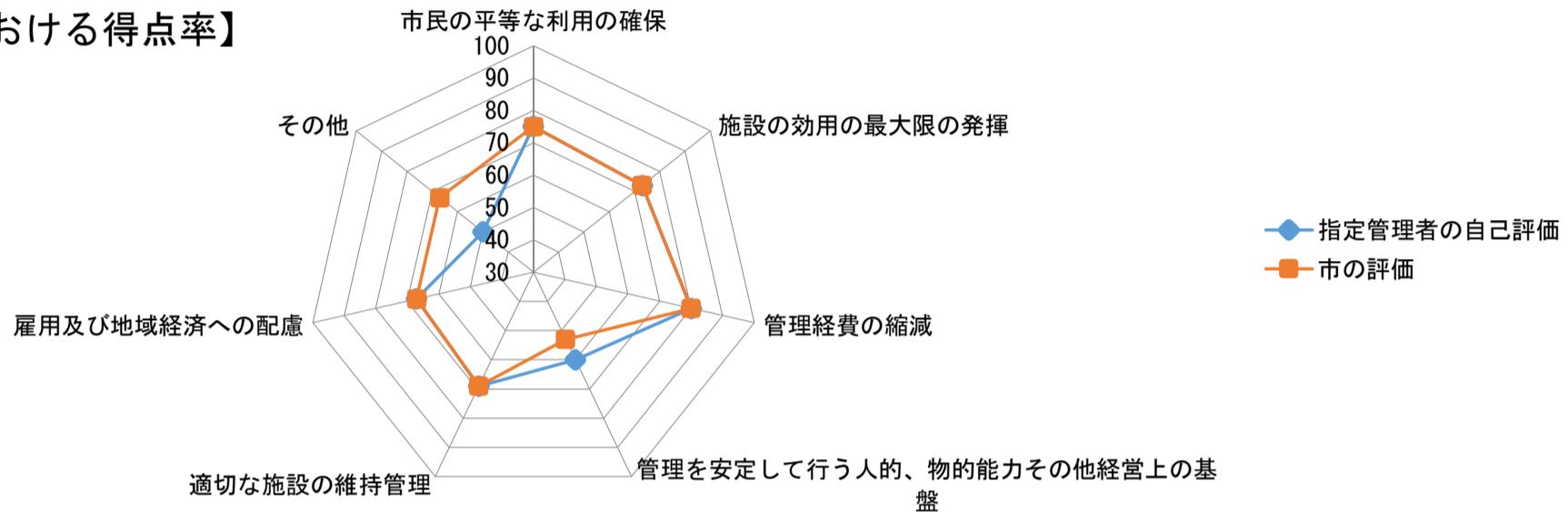
施設名称	郡山市更生園			施設区分	事業実施型		
施設所在地	郡山市希望ヶ丘22-16			指定管理者	社会福祉法人郡山市社会福祉事業団		
指定期間	2019年4月1日から2024年3月31日まで			施設所管部課	保健福祉部障がい福祉課		
評価項目	評価基準	配点（標準点）	指定管理者自己評価	自己評価コメント	市評価	市評価コメント	特記事項
<b>I 市民の平等な利用の確保</b>							
1 平等利用	市民の利用にあたり、公平であるか。（例：使用許可、使用料等の減免、利用の制限 等）	2(1)	2	「公の施設」として利用者の意向を尊重し、平等利用・公平性を保つように配慮した。	2		
2 危機管理、事故・災害等への対策・対応	事故・災害発生時又は危険予測時の対策・対応が行われているか。（例：マニュアル整備、訓練等）	2(1)	1		1		
	小計	4	3		3		
<b>II 施設の効用の最大限の発揮</b>							
3 管理運営方針	市が示している管理運営方針及び仕様書に合致した、施設の管理運営がなされているか。	4(3)	3		3		
4 事業実施状況	計画どおり事業が実施されているか。サービス向上の取り組みがなされているか。	10(6)	6	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、段階的に計画どおりの事業実施に移行している。	6		
5 広報・PRの実施	利用促進のための取組みを実施しているか。（例：事業の開催案内、ホームページの管理 等）	4(3)	3		3		
6 接客態度	言葉づかい、態度、電話対応、名札、服装等は適切か。	4(3)	3		3		
7 苦情・要望の把握・対応	利用者からの意見、苦情を受けて、迅速に対応できているか。（記録簿整備を含む。）特に重要な事案については、遅滞なく市へ報告しているか。	4(3)	3		3		
8 市、関係機関、類似施設、地元等との連携	市、他の指定管理者、関係機関、類似施設、周辺施設、地元等との連携を図っているか。（例：施設間の回遊・相互利用、地元とのタイアップ、積極性 等）	4(3)	4	施設入りのビブス着用しての近隣清掃活動を定期的に実施したり、買い物学習で近隣のコンビニで買い物学習を行うなど地域交流を行った。	4		
9 利用者アンケートへの対応状況	利用者アンケートによる指摘のうち、改善すべき事項について対応を図っているか。	3(2)	2		2		
	小計	33	24		24		
<b>III 管理経費の縮減</b>							
10 帳簿管理・経理	帳簿等は適正に管理されているか。契約にあたり、適正な経費算定（積算）が行われたか。業務委託や修繕について適正な監督、検収が行われたか。	5(3)	5	経理規程に基づき、帳簿管理を適正に実施。日々の現金管理を厳重に行なった。契約業務の一連の書類の整備を行い、郡山市による監査を実施した。	5		
11 収入確保、支出の適正化等、予算の執行状況	収入確保の取組みを推進しているか。指定管理料を含め、支出が適正に行われたか。	5(3)	3		3		
	小計	10	8		8		
<b>IV 管理を安定して行う人的、物的・能力その他経営上の基盤</b>							
12 人員・研修体制	人員の配置、勤務実績、労働環境等は適切か。必要な資格、経験等を有する人員が確保されているか。職員に対し研修を実施しているか。	5(3)	3		3		
13 収支状況	収支予算書どおりの収支状況となっているか。	5(3)	3		2	前年度より収入増となったが、収支が赤字であるため、改善が必要	
14 連絡調整	協定書等に従い、市への各種届出、報告、提出、協議、相談等を適切にしているか。市や地域、関係機関との連絡調整を適切に行っているか。	5(3)	3		3		
	小計	15	9		8		
<b>V 適切な施設の維持管理</b>							
15 施設・設備の保守管理	法定点検が確實に行われているか。施設・設備が適切に利用できるような状態が保持されているか。（修繕を含む。）	10(6)	6		6		
16 安全の確保	建物・設備等が安全に利用できるような状態が保持されているか。	4(3)	3		3		
17 清掃・衛生・美観維持	利用者が快適に利用できるような状態が保持されているか。市の指定管理施設にふさわしくないチラシやパンフレットの陳列、ポスター掲示等はないか。	4(3)	3		3		
18 備品の管理	備品が適切に管理されているか。	2(1)	2	備品台帳とも整合があり使用状態も良好である。	2		
19 持ち込み物品等の管理	持ち込み物品等が適切に管理されているか。（例：持ち込み物品等管理簿、表示 等）	2(1)	2	持ち込み管理簿と整合があり、備品区分別が出来ている。	2		
20 法令等遵守	法令、条例等に基づき、必要な点検、報告、手続き等を行っているか。	2(1)	1		1		
21 個人情報保護	個人情報保護に関する規定が整備されているか。個人情報の漏洩、滅失等の事故防止対策を講じているか。	2(1)	1		1		
	小計	26	18		18		
<b>VI 雇用及び地域経済への配慮</b>							
22 雇用・労働条件への配慮	労働基準法等の労働関係法令、郡山市公契約条例等の順守がなされているか。労働条件への配慮は十分か。	3(2)	2		2		
23 地域経済への配慮	計画通りに市内からの職員採用を行っているか。再委託は計画通り適正に行われているか。市内事業者への再委託を行っているか。	3(2)	2		2		
	小計	6	4		4		
<b>VII その他</b>							
24 活動指標	設定した指標の目標値（開館日数、244日）を達成しているか。	2(1)	2	目標値244日を達成している	2		
25 成果指標	設定した指標の目標値（施設利用者数、7,043人）を達成しているか。	2(1)	0	施設利用者数は、5,722人と大きく下回った。	1	目標値には至らなかつたものの、前年度より利用者増となつておらず、目標値の80%は達成している。	
26 指定管理業務への姿勢	積極的な管理運営、市に協力的であるか。地域や民間事業者と円滑な関係を構築しているか。	2(1)	1		1		
	小計	6	3		4		
合 計 点			100	69		69	

	実績					
	令和元（2019）年度	令和2（2020）年度	令和3（2021）年度	令和4（2022）年度	令和5（2023）年度	合計
指定管理料（千円）	0	0	0	0	0	0
利用料金収入（千円）	44,239	42,883	40,844	44,995	46,327	219,288
利用者数（人）	5,614	5,481	5,392	5,505	5,722	219,288
二次評価（市の評価）	C +	C +	C +	C +	C +	
備考					利用料金収入については見込み値	

## サービス向上対策

送迎に関してマイクロバス・ワゴン車・軽自動車の3台を駆使し、利用者の希望に添う送迎に努め、乗車時間の短縮にも配慮した。通年、作業を中心とした支援を行うとともにスポーツ・学習活動の他、花見・クリスマス会等の季節行事を行った。コロナ禍で外出も制限があったが、秋の旅行を楽しむなど安全確保を図りながら利用者に楽しんでもらえるような工夫を行った。逢瀬町地内の畠でサツマイモ・枝豆等を収穫し、苗植えから収穫の楽しみと一緒に味わった。また、買い物学習や地域活を通して、近隣住民との相互理解を深めた。

## 【各評価区分における得点率】



## 【一次評価（指定期間による自己評価）】

評価	点数	評価内容
C +	69	<p>【総合評価（評価できる点等）】 仕様書に基づき適正な職員配置を行い、管理運営を行った。職員の資質の向上のためコロナ禍ではあるが積極的な研修参加を目指し、虐待防止に係る内部研修も行った。運営に関しては利用者の平等利用の確保に努めアウトプット240日はクリアした。また、法定検査・定期検査など施設の維持管理を適正に行なった。また修繕については適宜対応した。事業に関しては利用者の安全確保を第一とし、個別目標に合わせた支援を行なった。送迎についてはマイクロバス・ワゴン車・軽自動車の3台を使用し利用者の要望に対応するように心がけ乗車時間の短縮を図った。日々の目標として軽作業を行い、工賃として作業収入を分配し、作業意欲につながるように努めた。給食は栄養バランスがとれた温かい食事を提供することにより食生活の向上を図った。買い物学習や地域活動、清掃活動での挨拶などを通じて、地域の方との相互理解を深めるように努めた。</p> <p>【改善のための行動計画への対応状況】 利用登録者数は35名となっているが、長期欠席者が含まれているため新たな利用者開拓が必要となっている。支援学校の実習生を対象として新規利用者の確保を行っていきたい。</p>

## 【二次評価（市による評価）】

評価	点数	評価内容
C +	69	<p>【総合評価（評価できる点等）】 利用者増、収入増となっている。 また、施設近隣の清掃活動や近隣のコンビニでの買い物実習などにより、積極的に地域との交流を図っている。 送迎も利用者の障害特性に応じ、対応を図っている。レクリエーションなどの余暇活動も感染対策を図りながら、コロナ禍以前のように実施しており、利用者の楽しみとなっている。</p> <p>【改善のための行動計画への対応状況】 前年度より収入増となっており、改善が図られている。 利用者の確保に向けて、支援学校と連携し、何度も体験利用を実施し、施設内での支援内容とのマッチングを行い、卒業後の日中の活動場所となるよう努めている。</p>

## 【指定期間全体を振り返っての総括評価】

	プラス評価となる点	マイナス評価となる点
指定期間による評価（一次評価）	利用者一人一人の立場に立った、親身な支援を職員一人一人が心がけたことにより、利用者や保護者から「更生園大好き」「これからも更生園に通いたい」との声をもらっている。カリキュラムについても利用者の障がいに対応できる軽作業を中心に据え、個々の能力に応じた無理のない作業工程を提供してきた。軽作業以外では、スポーツ・音楽・3B体操などのクラブ活動や創作的活動などを取り入れた学習活動や調理実習、畑作業や地域の清掃、親子旅行や季節に応じた行事など多彩なメニューを提供し、利用者に楽しみと貴重な経験を提供してきた。利用者それぞれの誕生日にはその都度誕生会を開催するなど利用者の気持ちに寄り添った支援を提供してきた。さらに支援学校の生徒は勿論、大学生などの実習や見学も積極的に受け入れてきた。 また、限られた予算の中で経費削減に取り組み、利用者に不便を感じさせない範囲で、手作りや職員作業などで工夫しながら事業や管理を行なってきた。	相談員や支援学校の先生方、他事業所の職員などと連絡を取りながら新規利用者の開拓に努めたが、利用者増にはつながらなかった。
市による評価（二次評価）	コロナ禍で、感染対策を講じながら支援を実施し、施設内で感染拡大することはなかった。コロナ禍の中、利用控えはあったものの、利用者は増加傾向にある。 施設近隣の清掃活動や近隣のコンビニで買い物実習を行うなど、積極的に地域と交流を図っている。	利用者は増加傾向にあるものの、目標値は達成できなかった。收支も赤字となっている。